

大阪市従民生支部における国際貢献事業の取り組み報告について

《はじめに》

この間、私たち大阪市従業員労働組合民生支部では、15年に渡り『大阪マイペンライ』の活動を支部の独自取り組みと位置づけ運動展開を図ってきました。そして今回、支部解散に伴う記念事業の一つとして、タイ・バンコクのスアンプルースラム地区にコミュニティーセンター、そして同国北西部の山岳地帯の学校に学生寮の建設、また、日本国内での活動として、支部での絵本作成等、私たちにとって大きなプロジェクトとなった国際貢献事業の取り組みをレポートさせていただきます。

《記念事業に至った経緯》

大阪市従では、単組の方針として2007年度から組織再編がおこなわれ、民生支部においても、2009年8月に他の3支部と統合することとなりました。これにより、これまで支部で積み立ててきた財産の取り扱いを協議しなければならず、そのため、統合前の事前協議として2008年11月より「支部残余財産検討委員会」の場で議論を重ねてきました。そして最終的には、新たな支部（現在の市民生活支部）に持参する移行金を除いた残りの財産を残余財産とし、今回の事業費として活用しました。

《シーカアジア財団への支援》

私たち市従民生支部では、毎年12月におこなわれる大阪マイペンライのスタディーツアーや招聘研修等に参加し、タイ、ラオス、カンボジアの方々と親睦を深めてきました。そしてその中でも、タイのシーカアジア財団（以後シーカ）とは、大阪マイペンライやSVAを通し、様々な繋がりを持ちながら、この間お互いの信頼と和を培ってきました。

シーカのスタッフは、タイが抱えるあらゆる問題によって、子どもの教育が迫害されていることに皆が真剣に取り組んでいます。また、それに携わる地域の教育者や住民代表者も何とか改善しなければいけないと日夜努力を続けています。しかし当時、シーカもSVAから独り立ちし、独立採算で財団運営を維持していかなければならない大変厳しい時期であったため、財団の活動に賛同してもらえる支援者を早急に探す必要性がありました。

私たちはそんな姿を目の当たりにし、またこちら側のタイミングとも合致したこともあり、是非ともこの機に協力させてもらいたいと考え、今回の国際貢献事業への展開となりました。

《国際貢献事業の内容》

事業内容としては、シーカが早急におこないたいと考えていた2か所の建物建設の取り組みを基本的に尊重し、その取り組みに市従民生支部が望む機能を追加してもらうこととなりました。

具体的にシーカと取り組む事業としては、冒頭でも述べたバンコク・スアンプルー地区のコミュニティーセンターとタイ北西部山岳地帯でミャンマーの国境にも近いメーラムン学校の学生寮建設です。その 2 か所のうち前者にあたるコミュニティーセンターにおいて、支部が望む「食育推進がおこなえ、そして支部と現地住民とが交流をもてる場」としての機能を設けていただきました。

またシーカがこの 2 か所の建物建設に取り組みたかった理由として、まずバンコク・スアンプルー地区においては、7 年前に大規模な火災が起こり、地域一帯が全焼したことを受けて、国も係わった再開発をすることになりました。しかしこの再開発は、スアンプルー地区が火災によって計画されたものではなく、他のスラム地域においても順次おこなわれているバンコクの街づくりの一環で、いずれこの地域も再開発される予定となっていました。

他の地域での再開発では、入り組んだ迷路のような平屋建て家屋を取り壊し、広々とした道路を設けた高層アパートに姿を変え、とても衛生的な環境へと生まれ変わっていますが、その一方、これまで平屋の軒先で店を構え、生計を立ててきた多くの住民にとっては、仕事ができなくなったり、またアパートの高層化で、他の地域から移り住む人が増え、これまでのコミュニティーが無くなったりと、再開発前からこの地域に住む人にとってはデメリットも多くあったようです。

このようなことを踏まえ、スアンプルーの地域住民は、再開発の設計段階から街のあり方について要望をおこない、家屋の形態については、平屋と高層アパートを両立させ、火災前に店舗を構えていた方にも、これまでと同様の生活が送れるように配慮がなされました。しかしもう一方、地域コミュニティーについて要望をおこなってきた、地域住民が集える場の建設については、国から予算の執行がなされず、有志での建設という取り扱いになりました。

これらの状況からシーカでは、地域コミュニティーの継続と青少年育成の観点から、この地域に新たに移り住む住民も集えるコミュニティーセンターが必要であるとし、その建設を切望していました。

次に、メーラムン学校の学生寮建設においては、地方の教育政策として、各村に保育所と小学校 2 年生までの教育施設が完備され、それ以上の教育については、この学校にて、高校 3 年生までの教育を受けるシステムとなっています。しかし遠いところでは 30km 以上離れた村から通わなければならない子どももおり、また交通機関も愚か、道路も整備されていないところも多いため、ほとんどの子どもが徒歩で通わなければならない状況です。当然のことながら平坦な道ではなく、アップダウンも厳しい環境となっており、これを毎日通学するのは実際不可能であるため、そのような状況の子どもにおいては、学生寮が必要不可欠となっています。この学校では、4、5 棟の寮が敷地内に建てられており、1 人半畳ほどのスペースの中、学生がすし詰め状態で生活していますが、この状態であっても、まだ寮を必要とする学生の需要に供給不足のようです。

このように学生の教育の機会を担保するためにも、もっと寮を増やす必要性があったために、この学校への支援を優先的な取り組みとしたようです。

《タイ視察研修①》

これらの国際貢献事業が決定し、早速事業がスタートすることになりました。またそれに伴い支部においても、組合員に募集を募り、事業の進捗確認の視察と現地住民との交流を目的とした「タイ視察研修」を3度に渡り開催してきました。

最初の視察研修においては、2009年9月に5人が参加してきました。現地状況としてスアンプルーのコミュニティーセンターでは、建物の骨組みがおこなわれている所で、まだどのような間取りになるか分からず、設計図面を見ながら詳細説明を受けました。その際、こちらが要望をしていた食育推進のための厨房機能に若干の祖語があり少し変更をお願いしましたが、その他は問題もなく、概ね順調に工事は進んでいました。

また、メーラムン学校の学生寮においては、基礎工事が始まった最中で、こちらも図面を見ながらの説明となり、ベッドの配置や学習室の設置、そして今後のタイムスケジュールなどの確認がなされました。

次の2度目においては、年明け2010年1月に4人が参加してきました。この時の視察研修では、スアンプルーのコミュニティーセンターが完成し、私たちの訪問に合わせ、とても盛大で気持ちのこもった落成式を住民総体で催していただきました。コミュニティーセンターの出来栄も立派な2階建ての施設となっており、1階部分には、20畳程の集会室と、その横に8畳程の住民代表者らの部屋が隣接し、そしてその奥に15畳程の調理室が完備されています。2階には、その3つの部屋の仕切りを取った広いスペースが設けられ、ここで青少年育成や住民の文化・カルチャースクール等の催事がおこなわれる予定となっています。

一方メーラムン学校の学生寮は、屋根と壁の建設が終了し、次に扉や窓の取り付けと内装に取り掛かる段取りとなっていました。しかし視察最中に図面を見ながらチェックしていた所、出入口扉位置が大きく違っていることが判明、すぐさま校長に報告し、業者にやり直しをお願いしました。担当者曰く、「地方ではこのようなことが頻繁にあり、こまめにチェックをしなければならない。」との事です。

そして最終の視察研修は、2010年11月下旬に4人が訪問してきました。3度目となるこの回の目的は、メーラムン学校の学生寮完成に伴った落成式参加のためです。当初予定では、前回の訪問時にコミュニティーセンターと同様、落成式をとりおこなうこととなっていたのですが、度重なるトラブルで大幅に建設が遅れ、また私たち自身も視察日程が合わなかったこともあり、この時期にずれ込んでしまいました。

完成された寮には、総勢38人の女子高生がすでに入寮しており、彼女たちも参加しての学生寮の落成式となりました。その式では、始めに各代表者あいさつ、そして支部寄贈が示されたプレートの除幕などがおこなわれ、最後に記念撮影をして終了しました。その後

おこなわれた寮内の視察では、他の寮にはない学習室やベッドなど、新たに工夫が施された点についての話を聞き、引き続き入寮学生との交流会では、この寮が学校の中で特別な寮となっていること、そしてこの寮に入寮することが、学生の中でステータスになっていることを聞くことができました。私たちは「なぜステータスになっているか？」を尋ねてみると、1つ目の理由としては、この寮への入寮資格基準が設けられたこと（自分自身で身の回りの世話ができること、成績が優秀であること）、そして2つ目は、学習室の完備や個人の私物を収納できるスペースが確保されている等、設備面が充実していることが挙げられていました。先生曰く、「この寮に入寮したことで、彼女ら自身の自覚も目覚め、より一層勉学に励むようになり、成績もほとんどの学生が上がった。」とのことでした。

ただこの学生寮建設で問題が解決された訳ではなく、まだまだ多くの学生は寮を必要としています。今回、私たちの大きなプロジェクトは一旦区切りとなりますが、また様々な手法をとりながら、新たな支部でも取り組み継続をしていき、教育の機会を望む多くの学生の力になりたいと考えています。

《タイ視察研修②》

今回の視察研修では、タイの人々との交流も一つのメインテーマと掲げ、以下の4回に渡り、「食」で交流を図ってきました。

第1回 1回 (場所：シーカ事務所、内容：バナナの春巻き揚げ)

第2回 2回 (場所：スアンプルー地区、内容：ぶっかけ素麺と白玉入りぜんざい)
(場所：メーラムン学校、内容：白玉入りぜんざい)

第3回 1回 (場所：スアンプルー地区、内容：手巻きすしと握りずし)

この4回のうち、今回は第3回視察研修の際、スアンプルー地区で手巻きすしと握りずしの食交流をおこなった内容について報告します。

この第3回視察研修でもハードなスケジュールではありましたが、コーディネーターの事前計画には今回もスアンプルー地区の方々との食育交流をおこないたいとの打診がありました。この食育交流においては、前回の『ぶっかけ素麺と白玉入りぜんざい』が大変好評だったこともあり、「今回も是非とも交流をおこないたい。」との地域住民の強い意向で再度実現することになりました。

依頼を受けた当初、こちら参加メンバーの打ち合わせでは、焼きそばを振る舞うことで決定をし、材料に関してはバンコクで現地購入することにしていました。実は近年バンコクでは日本のスーパーが進出してきており、ほとんどの日本の食材が揃うようになっています。

今回スアンプルー地区には、日程全4日間の最終日に訪問することになっており、バンコクには、その前日の夕方に（メーラムンから）戻ってきました。バンコクでは比較的楽な日程で、予定としては最終日のスアンプルーの食育交流だけでしたが、シーカからの強い依頼による急きよの訪問や、その後の交流会など、蓋を開けると慌ただしい日程になっ

てしまいました。食育交流の買い出しにおいても夜 9 時位にやっと時間ができ、食材購入することとなりましたが、タイに来てから現地の希望で「是非とも手巻きずしをお願いしたい。」との依頼を受け、こちらも急きょメニュー変更することになりました。

食育交流当日は、朝 9 時にスアンプルー地区へ到着した後、すぐにコミュニティーセンター2階で歓迎会が開催され、はじめに住民代表者が「私たちの活動に支援いただき、またこの間、良い関係を構築して頂いたことも大変光栄に思い、感謝しています。」との挨拶があり、そして歓迎の意を表して、地域の青少年によるタイ民族舞踊を披露して頂きました。

その後場所を1階に移し、調理室にて「手巻き寿司」の準備に取り掛かり、米の水分量や寿司酢の合わせ方など、地域の方々にレクチャーしながら約1時間強をかけ楽しく調理をおこないました。そして次にタイの方からは、「ソムタム」というタイ料理を教えてもらいました。この「ソムタム」という料理は、まだ熟していない青パパイヤをメインに唐辛子やパクチーを混ぜ合わせたサラダで、作り方は、まず木の器に調味料、香辛料、そして唐辛子を入れ、木の棒で軽く砕いていき、次にパパイヤなどの野菜を随時投入し、馴染んできたら、器に盛り付け完成の手早くできる簡単な調理です。しかし、いざ作らせてもらうとなかなか難しく、1人ひとり挑戦させてもらいましたが、どれもが違う出来栄えになってしまいました。

最後に、お互いで作り合った料理で交流会がおこなわれました。手巻き寿司と握り寿司では、具材として卵、ツナ、サケ、ボイルえび、カニカマ、アボガドなどを用意し、地域の皆さんに試食してもらいました。やはり寿司は、今タイで流行っていることもあり、かなりの量を用意していましたが、ほとんど余らず、ほぼ完食してくれました。また、タイ料理のソムタムも唐辛子を控えてくれたようで、日本人向けの味になっており、思いの外美味しく頂きました。

料理を食べ終わると交流会の終了予定時刻も大幅に過ぎ、大変アットホームな雰囲気の中、お別れをむかえることとなりました。最後に地域代表者や住民 30 人程の方々とコミュニティーセンターをバックに記念写真を撮り、スアンプルー地区をあとにしました。

《最後に》

3 度に渡る視察で多くの住民と交流を交わし、言葉の壁を乗り越えた友人関係が築けたと感じています。またこの報告では書ききれないホームステイでの出来事やマイグラントの学校での様々な触れ合いも、とても感慨深いものとなりました。今後においては、今回参加した者だけではなく、多くの組合員とも交流が広げられるような、幅広い取り組みも模索しながら、より一層親交を深め、マイペンライの理念でもある「共に生き、共に学ぶ」を実践していきたいと考えます。

最後になりましたが、今回の視察研修でお世話になりました SVA の松尾さん及びシーカアジア財団のスタッフの皆様、そしてタイの各地域で私たちを快く受け入れをして頂いたすべての方々に感謝を述べ、レポートを締めさせていただきます。